生きていれば、なるようになるさ　　天満清央

2006年春、42歳で多発性骨髄腫の診断を受け、その半年後治療開始のシグナルである高カルシウム血症となり治療を開始。末梢幹細胞自家移植を2度行い、寛解を得ることができました。

いまだに完治の無いこの病気で再発へのカウントダウンをしながらも、4年が過ぎ無事に寛解を維持できています。

告知の時に見たネットでの情報、余命3～5年と云う情報に怯え、治療に入るまでは病気の事を知ろうとはしませんでした。結果いざ治療に入ることが決まり、何を目標に治療されているのかも知らない自分がいました。ゴールも知らない、先の見えない治療はとても不安なものでしたが、患者の会を通じ、同じように病気と闘っている仲間と知り合い、治療を乗り切ってきた先人のアドバイスや励ましをもらう事で徐々に病気のこと、治療のこと、治療の目標についても理解できるようになり苦しい治療を乗り切ることができました。

がんと言われたら誰しもが一人で悩み、不安に思い、病気から目を背けようとすると思います。でも一人じゃない、一緒にがんばっている仲間はきっといます。情報は命を救う！がんばりまっしょい。多発性骨髄腫が持病ですと言える日が来ることを信じて。

川柳　　井田寿一

退院の笑いを乗せてUターン

窓に来る雪たわむれて手術明日

点滴のしずくに祈るいのちの灯